

## 香川県がん診療連携協議会地域連携パス専門部会（乳がん）会議メモ

- 1 日 時 平成21年8月17日（月） 20:00～21:00
- 2 場 所 香川大学医学部基礎臨床研究棟4階会議室（453号室）
- 3 出席者 高松市民病院副院長 坂東 義教  
香川大学医学部附属病院乳腺内分泌外科講師 紺谷 桂一  
香川県立中央病院外科部長 小笠原 豊  
高松赤十字病院第一胸部・乳腺外科部長 吉澤 潔  
香川労災病院第三外科部長 村岡 篤  
三豊総合病院外科医長 久保 雅俊  
オブザーバー  
香川県立中央病院外科部長 青江 基  
香川県健康福祉部医務国保課副主幹 佐々木 秀朗  
香川大学医学部附属病院中核病院機能強化支援室長 松岡 實夫

### 4 概 要

乳がん専門部会のリーダーである香川県立中央病院の小笠原先生が議長となり、資料に基づき説明があった。

1. パスの作成と今後の進め方（地域連携部会での検討事項を含む）
  - (1) 本部会でパスの中身を検討し、9月中に成案を作成する。
  - (2) パスの成案をもとに、各拠点病院において連携している地域の医療機関との間で試験運用を行い、問題点を洗い出す。
  - (3) 全体のパス部会において、地域連携パスに係る共通部分（フローチャート、私のカルテ等）を検討する。
  - (4) 5大がんのパスの成案が整理できた段階で、県医師会と協議し、県内各医療機関向けのアンケート調査を行う。
  - (5) 地域連携パスを運用する場合には、各医療機関（かかりつけ医）との間でミーティングを行い、医療機関間の相互理解を深める。
2. 乳がんのパスについて
  - (1) パスの形については、大阪府を一部使用し、谷水班の地域連携パスを基本的に土台として、香川県独自の変更を加えて作成する。
  - (2) 対象患者をどのようにするかを本部会で決める。パスに対象患者を明記。（全告知済、術後、RT 後、術後化学療法後の患者、術後6ヶ月以上経過、患者の病態が安定している患者（直近の検査で異常なし）、ホルモン剤を内服後3ヶ月以上経過、LH-RHアンタゴナスト患者を含む、ハーセプチン患者は除外を対象とするよう、話し合いがあった。）
  - (3) 連携パスの期間は10年とし、3年間は半年毎（1年半・2年半は拠点病院の判断でかっこをつける）4年目以降は1年毎に、行うようにする。
  - (4) 乳がんを専門としているたけべ乳腺クリニック、伊達病院などについては、拠点病院と同様、手術等を行っている。本会での乳癌の地域連携パスが固まり次第、これらの施設に今後拠点病院はこのパスを使用する予定であることを連絡する。

- (5) 拠点病院で経過観察を行うために実施する検査項目であっても、かかりつけ医で実施できるものは、かかりつけ医で行っていただく。
- (6) 以上の意見を参考に、パスを修正し、かかりつけ医用及び患者用説明資料を小笠原医師が作成する。(検査項目欄(エコー、MRI用)の追加)
- (7) 今後、本部会での検討事項は、メールのやり取りで行う。
- (8) 私のカルテの部分は、国立がんセンター中央病院の作成した患者必携「試作版」の乳癌部分を参考にする。